

いしづち

2021.5

MAY

No.140



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>

新年度を迎えて

世界建築紀行 中国タクラマカン砂漠のオアシス探訪・天山北路
委員会報告



UEIDA

1	会長挨拶	新年度を迎えて	公益社団法人愛媛県建築士会 会長 赤根 良忠……①
2	新旧事務局長 挨拶	事務局長退任及び就任のご挨拶	前事務局長 大西 勝秀……② 新事務局長 渡辺 修……②
3	世界建築紀行	中国タクラマカン砂漠のオアシス探訪・天山北路	西予支部 松山 清……③
4	委員会報告	文化財・まちづくり委員会 令和3年度の活動について 「まちづくり景観写真コンテスト」の開催 良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例の募集 街中（空き家）部会長 眞田井良子……③ 女性委員会主催「オンライン顔ヨガ体験」開催報告	委員長 峰岡 秀和……③ 景観部会長 曾我部 準……③ 女性委員会 委員長 近藤 佳代……③
5	支部報告	四国中央支部「住宅なんでも相談会」 今治支部「身近な施設をCLTで」	四国中央支部 支部長 岸 良一……⑩ 今治支部 越智 一貴……⑪
6	けんちくの輪	昭和・平成・令和 振り返ってみる	今治支部 新居田明夫……⑫ 松山支部 花岡 晶子……⑬
7	お知らせ	第6回理事会概要報告 年会費納入のお願い 県政発足記念日知事表彰 神田孝一さん受賞	事務局……⑭ 事務局……⑮ 事務局……⑮

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「重信川・伊予灘河口付近」上田 勇一

〔表題画について〕
（松山市・松前町）

もともと「伊予川」と呼ばれていたこの川は豪雨の度に氾濫していた。文禄・慶長年間の松山城の城主・加藤嘉明が家臣の足立重信に改修を命じた。この重信の工事によって伊予川の氾濫が収まったため、その功績を讃えるために人々は重信川と呼ぶようになった。河川名称に個人の名が付けられるのは、日本では大変珍しいとされる。（資料・ウィキペディアより）

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
（愛媛県建築士事務所協会主催）
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
（新潮社）の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞（東京/日動画廊）
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
- 2015～17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「矚リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

新年度を迎えて

新緑の候、皆様にはますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。令和3年度も早や一か月が過ぎ、新年度の各種会議・総会その他行事を控え日々お忙しいこととお察し申し上げます。平素は建築士会活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

建築士会に長きにわたり尽力いただいた大西事務局長が令和2年度末で退任され、今年度4月1日より新しい渡辺事務局長を迎えて新年度のスタートを切ったところです。前任の大西事務局長におかれましては、建築士会の組織の大きな改革であった公益法人への移管手続きに続き、建築士会館の耐震不足に依る建て替えに伴う業務、耐震診断派遣業務においては、建築士の派遣や診断結果の収集・報告、さらに各種講習会の運営や建築士の登録業務等々、以前にはなかった重要な業務を行っていただき、現在の建築士会があるといっても過言ではないと思います。現在は、これらの重要な業務の引継ぎを行いながら、今年度の総会に向けて進んでおります。渡辺事務局長には、今までの体制に加え、さらに新しい風を吹き込んで、事務局一丸となって本会のさらなる発展・活躍を期待しております。

さて、昨年度を振り返ってみると、丁度今頃の時期は新型コロナウイルスの蔓延に依り緊急事態宣言が発令されて、従来の形での行事が開催できず、社会生活でも自由に行動できない悶々としていた頃であったと思います。56年振りの東京オリンピックは延期となり、様々な国内行事にも多大な影響があり、未だ影響は続いています。

建築士会においても、多岐にわたり様々な活動・行事の開催に支障をきたしました。昨年度は本県が中四国ブロック幹事県として、準備万端で開催を待つばかりであった関係者300名を超える「青年・女性建築士の集い中四国ブロック（愛媛大会）」も止む無く中止となって大変残念な結果でした。また広島県で開催予定であった第63回全国本会広島大会も延期となり、今年の11月開催に向けてコロナ対策を考慮した大会計画を練っているようです。いずれにしても通常の運営はできないことを前提に、WEB配信を含めた大会計画を練っているようです。

本会においても、令和2年度通常総会も人数制限を設けかつ懇親会も無しとの会となり、各種委員会活動や県内各支部の会議なども縮小・書面での開催となり、今まで経験したことのない運営方法でWEB会議も徐々に開催されるようになり、対面での会議とまではいきませんが、

公益社団法人愛媛県建築士会 会長 赤根 良忠

少しは意見交換ができて救われたのではないかと思います。

主要な業務の中でも、建築士試験においては建築士法の改正により実務経験後付けでの建築士免許の取得となる新しい制度に依り、実務経験無しでの建築士試験が昨年度から受験可能になり、受験者の増加の予測もされるなか試験業務・会場設営においてもコロナ対策に多くの時間と手間を取られながらも、1級・2級・木造の学科・製図の試験が何事もなく無事に終了できたことが何よりでした。

令和3年度も建築士定期講習、監理技術者講習、応急危険度判定士の養成など資格に伴う各講習会、改正建築士関係の情報提供に伴う勉強会も継続して開催していきますので、機会をとらえて受講の程宜しくお願いします。

入札制度の変更に依るCPD単位の取得も大幅に必要となるようです。当会が行う講習会などを活用してCPD単位を取得して頂ければと思います。建築士会会員に限り、会誌「建築士」を使ったオンラインでの自習型勉強で単位取得も出来、有効にこれらを活用し入札制度にお役立てください。当会においてもCPD単位認定講習会の充実を図り、会員増強に繋がるよう体制を作っていきます。

新しく設計・施工など建築関係業界に入社された方も、社内の様子や仕事の概要も見えてきて、少しは落ち着かれたと思われるかもしれません。せっかくモノづくりの建築業界に入ってきたのであれば「建築士会」を活用していただき、いろいろな人と交流を重ねてほしいものです。

建築士会は今年70周年を迎えます。特別な祝賀行事も計画していませんが、コロナ禍が落ち着いて、何らかの記念行事でも開催できればと考えています。この後6月には通常総会も開催されます。7月には延期になっていた東京オリンピック、11月には延期された建築士会全国大会「広島大会」も予定されています。今までにない形態になると思いますが、様々な行事が無事開催されることを期待しています。

今年度も各種会議・講習会・委員会活動、また県内各支部の行事が対面およびWEB会議にて行われると思いますが、昨年よりは少しでも多く対面で開かれるよう工夫し、会員の皆様への情報提供や一般の方にも役立てていただける建築士会となるべく、事務局はじめ関係者で取り組んでいきますので、引き続きご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

事務局長退任及び就任のご挨拶



退任あいさつ

大西 勝秀

うらかな春の日差しが心地よいこのごろ、会員の皆様、いかがお過ごしでございますか。

さて、私儀、3月31日をもちまして、建築士会事務局長を退任いたしました。平成20年4月就任以来、13年間に渡り、建築士試験や各種講習会の実施など様々な業務に従事させて頂きました。

中でも・公益社団法人への移行・木造住宅耐震診断技術者派遣事業の受託・防災拠点建物となる建築士会館の建替など、皆様方のご助力により、士会業務の推進が出来ました事に感謝申し上げます。

ありがとうございました。



就任あいさつ

事務局長 渡辺 修

この度、4月1日付で事務局長に就任いたしました、渡辺と申します。

就任前は、愛媛県土木部の建築住宅課で主に庁舎や学校等の公共建築物に関する営繕業務に携わっておりました。そういう事情もあり建築士会の皆様方にはこれまで大変お世話になっておりまして、知見豊かな皆様方とまたこのように一緒に活動できますことは、このうえない喜びと感じております。

さて、現在我々を取り巻く環境は、会員数の暫時減少、コロナ禍等による社会活動の制限、会員の高齢化といった非常に厳しい状況にありますが、今後このような混沌とした中で求められるのは、会員相互の連帯意識の強化、社会活動意識や個々の技術力の向上といったことではないかと考えております。

いずれにしてもこれらは皆様方のご協力がなければ実現できないことばかりですが、皆様方の協力を頂き一緒に建築士会を盛り上げていきたいと思っておりますので今後共どうかよろしくお願い致します。

中国タクラマカン砂漠の オアシス探訪・天山北路

西予支部 松山 清

1 荒涼とした大地のシルクロード

中国西北部タリム盆地に広がるタクラマカン砂漠の風景は、砂丘が連なるといった美しく穏やかなものではなく、大きな岩が転々として、ある所では風力発電のための風車が数千基一面に建てられていたり、その荒野のような所に高速道路だけが延々と伸びていて、生命の痕跡さえも感じない、不毛の大地が広がっていました。風車の中には羽根が折れ、あるいは破損しているものも多数散見され、厳しい気候を物語っています。一帯一路の名の下に、高速道路や高速鉄道を走らせたいという中国の思惑もよくわかります。2018年

のGWにあまり日本に知られていない中国奥地のシルクロードを訪ねました。



▲風車が林立するシルクロード・天山北路

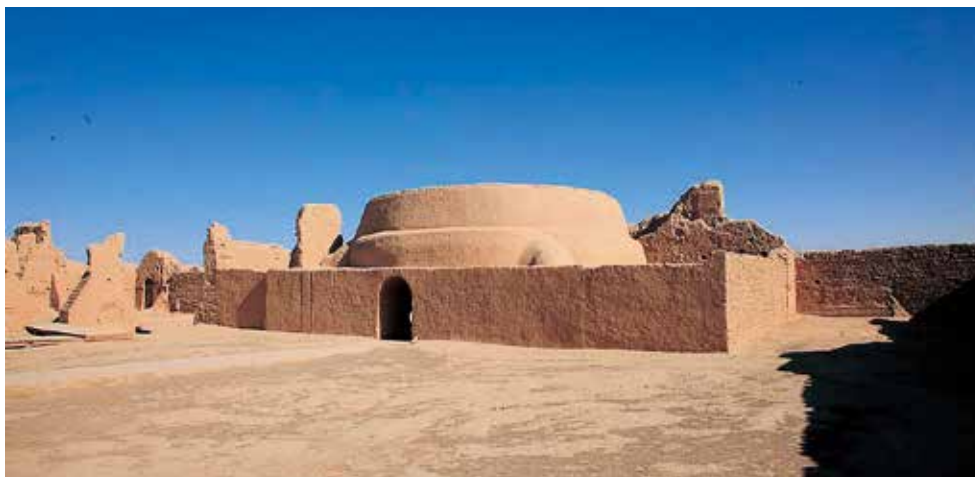
2 版築で造られたトルファンの遺跡

2.1 タクラマカン砂漠の3本の絹の道

西安から欧州の玄関イスタンブールへと続くシルクロードは、敦煌からタクラマカン砂漠の北を通る天山南路と南を通る西域南道に分かれ、中国の最も西の都市カシュガルで合流します。さらに、天山南路はトルファンで天山山脈北側のウルムチへと向かう天山北路

とに分岐するため、中国西域では3本のシルクロードが並行して走っていて、北京からウルムチ空港に到着し、天山北路で高速道路を東に向かいトルファンを目指しました。

トルファンはシルクロードの天山南路と天山北路の要衝として栄え、現在でも鉄道の分岐点であるなど地



▲高昌国城跡の遺跡

理的にも重要なオアシスで、5世紀頃には漢族が高昌国を建国して繁栄しました。玄奘三蔵も仏典を求めてインドへ向かう途中、高昌国に滞在したという史実が伝えられています。「カレーズ」と呼ばれる地下水路で水を遠方から引いてくるタイプのオアシスの代表的な町でした。



2.2 世界遺産・高昌故城

新疆ウイグル自治区内の移動は外国人の場合とても厳しく、国に管理されている感じです。車で1時間くらい走ると必ず検問所があって、そこで30分以上は銃剣をもった軍人に尋問されます。もちろん自分で対応することはできないため、現地ガイドにお願いして移動の目的や行き先などやり取りしてもらいました。漢族はIDカードを見せるだけで通過できますが、ウイグル族は車のボンネットやトランクを開けられて、車の下側の写真もとられ通過、外国人は顔写真まで撮られ厳しくチェックされるという繰り返しでした。

そのような状況で訪れた高昌故城(高昌国の城跡という意)はトルファン中心部から東約40kmのところにある城址遺跡で、外城・内城・宮城の3つの土塁で構成されていますが、版築のため建築物が激しく損壊して原形がわからない程でした。漢の時代から約千年栄えた都の城跡は、世界文化遺産登録により整備されていて、高昌国の王・魏文泰に歓迎され玄奘三蔵が説

法を行ったという建築物は、部分的ですがしっかりと形状を保ち往時が偲ばれました。

版築は粒子の細かい土を締め固めて土塁などを築くという、西域ではよく使われた建築技術で、安価かつ容易なため黄河流域で古代から用いられてきました。極度に乾燥した気候のため城跡も辛うじて形を留めている状態でした。世界遺産となるまでは高昌故城の中では耕作が行われたそうで、歴史的価値が認められたのは数十年前くらいになります。



▲2つの川の合流点の高台に築かれた交河故城

2.3 版築による世界最古の都市遺跡、交河故城



▲遺跡の遙か手前に建設されたパビリオン

夏には気温40度を超える日が続くトルファンなので、GWでも暑く30度を超えますが、乾燥しているため日陰に入ると大丈夫。海拔-150mにもなり、こんな所に海よりも低い大地が広がるのが不思議です。タリム川は流れを変えるため、彷徨える湖ロプノール湖も消滅し、楼蘭がトルファンの南方約300kmにあったということが浪漫のように思えました。

交河故城は6世紀初頭トルファンの西16kmに交河郡城が築かれたものですが、今に残る遺跡は唐の時代以降のもので、世界文化遺産に登録され、遺跡には寺院や仏塔・墓石群なども見られ、建築材料が砂漠の



▲石窟の入口が並ぶベゼクリク千仏洞
土葺き屋根の吐峪溝の町並み▶

細かい砂なので風化や劣化は時と共に進んでおり、その過程の一シーンが今の状態なのです。実際に訪れてみて、版築はこの強い日差しと極端に乾燥した空気、この気候だからこそ成立する建築技術だとわかりました。

世界遺産として観光整備するために遺跡の手前に造られたパビリオンがとても立派で、中国の観光産業の巨大さと勢いを物語っています。パビリオンから遺跡までも長い道のりを電動カートで移動するシステムでした。

2.4 仏教石窟、ベゼクリク千仏洞

石窟の開削が始まった6世紀頃、トルファンは仏教を信仰する地域で9世紀が最盛期でしたが、その後イスラム教が広がり石窟は破壊され、近代になって外国人探検家に壁画が剥ぎ取られたという悲劇の歴史が石窟には刻まれていました。火焰山山中の石窟なので版築の遺跡のような風化や劣化はありませんが時代に翻弄された傷跡が無残であり、残酷でもありました。

途中、立ち寄ったオアシス・吐峪溝には火焰山からの水の流れが見られましたが、民家の屋根は土で葺かれていて、建築の常識は覆されました。月間降水量1mm程のこの地域は防水のことを気にする必要がなく、むしろ強い日差しと熱を遮ることの方が遙かに重要なファクターなのです。





2.5 西遊記の燃える山、かえんざん火焰山

トルファン盆地の猛暑の代名詞のような赤っぼい地肌の山並で、地表から陽炎が立ち上っているように見え、荒涼とした殺風景な景観ですが、孫悟空の舞台として中国では有名な観光地で、多くの人を訪れていました。ベゼクリク千仏洞・高昌故城の道中にあり、テーマパークとなっていました。



▲西遊記の舞台、火焰山

2.6 多数のミイラが眠るアスターナ古墳群

トルファンの極度に乾燥した気候のため、墓地に埋葬された高昌国や唐の時代の住民の遺体がミイラとなって今の時代まで元の形状を留めているもので、一帯はぱっと見ると一面の畑のような広場でした。そこに斜めに地面に下って行く参道があり、その先が墓室となつてミイラを安置する構造です。実物のミイラは新疆ウイグル自治区博物館にあり、レプリカがここには置いてあってその様子が再現されています。



▲古墳の墓室へ下って行く参道

2.7 新疆イスラム建築様式の蘇公塔



▲広場の奥に立つ蘇公塔

トルファン市街地にあるイスラム教モスクで、隣接してイスラム教の墓地もありました。ミナレットは1779年に建てられたもので、組積造。幾何学模様などが彫り込まれていました。この時代には新疆ウイグル自治区はイスラム教の世界へと変遷していったことの証です。



▲蘇公塔に隣接するイスラム教の墓地

墓地に横たわる土塊は棺ではなく、そこに亡くなった人が眠っているという墓石のようなもので、遺体は地中深くに埋葬されているそうです。

3 世界で最も海から遠い街ウルムチ



▲ウルムチの国際大バザール

◀ 砂漠に突然現れた、ウルムチの住宅地

中国最大の面積をもつ新疆ウイグル自治区の首府ウルムチは、政治・経済・文化の中心地の大都市で、北京から無機質な大地を飛び続けてきて、砂漠の中に突如として超高層ビルが建ち並ぶ町が出現します。人口は258万人のビジネス都市として発展を続ける天山北路のオアシスで、南側に東西に長く横たわる天山山脈からの水源で発展し、西域都護府などの軍事拠点として重要視されてきた歴史はありますが、観光資源は少ない町でした。解放南路には国際大バザールという赤煉瓦のイスラム建築のショッピングモールがあり、中に入ると西域の情緒漂う果実や干し葡萄、ハミウリなどの穀類が売られており、オアシスの交易都市らしさを感じました。

また、新疆ウイグル自治区博物館では約3,800年前の「楼蘭美女」という、タクラマカン砂漠の東にある楼蘭鉄板河遺跡で発見された有名な女性の古代ミイラが展示公開されていました。



▲女性の古代ミイラ「楼蘭美女」

4 憧れと全く違ったシルクロード・天山北路

“シルクロード”と聞くとNHKのテーマ曲・喜多郎の「しゅらのみち 絲綢之路」や平山郁夫の青い月夜の砂漠に行く駱駝のキャラバンの絵画のイメージが浮かぶのですが、その地に自分の足で立ってみると、シルクロードは厳しく壮大なものでした。ゆっくり流れる時間や古への憧

れのようなものとは正反対の、自然の厳しさや弾圧され監視された社会で暮らすウイグル族の現実を知ることとなり、ある意味日本の自分たちの当たり前の日常が、どれ程尊い普遍的な価値を持つのかを実感することになりました。

文化財・まちづくり委員会

令和3年度の活動について

委員長 峰岡 秀和

文化財・まちづくり委員会は、令和2年度より「福祉部会」「防災部会」「景観部会」「歴史文化財部会」「街中(空き家)部会」の5つの部会に分かれて活動を始めました。それぞれの部会の中で、まちづくりというものがどういったものか、何が私たちにできるのかを考え、今年度の目標や活動の計画を立ててまいりました。各部会、コロナに負けず、魅力的な内容で建築士会を盛り上げていけるよう努力してまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

さて、早速ですが、「景観部会」と「街中(空き家)部会」では愛媛県建築士会の会員や賛助会員、ヘリテージマネージャーを巻き込んでイベントを計画しています。まだ詳細については詰めている段階(令和3年3月時点)ですので、概要だけを部会長に紹介してもらいます。

「まちづくり景観写真コンテスト」の開催

景観部会長 曾我部 準

皆様こんにちは、文化財・まちづくり委員会景観部会長の曾我部です。今回は当委員会で計画している「まちづくり景観写真コンテスト」についてお話ししたいと思います。

いきなりで恐縮ですが、皆さんは「景観」ってなんだと思いますか？ 自然風景？ 歴史のある街並み？ それとも地域が依って立つ工場の風景？ なんとなくはイメージできると思いますが、明確にこれというものはないのではないのでしょうか。

我が国では、「景観」という言葉は明治以降から学術的に使われてきた言葉です。1990年代から一般的にも耳にする言葉になってきました。ちなみに「景観法」の制定は2004年(平成16年)で、思ったより新しい法律です。法律ですので言葉の定義はされているだろうと紐解いてみると、「景観計画」や「良好な景観」という言葉は多用されていますが、ずばり「景観」という言葉の定義はされていません。ところが第8条に「景観行政団体は景観計画を定めることが出来る」とあります。そこで県内自治体を調べてみたところ、県内のほとんどの自治体で景観計画が策定されていました。それらの中で景観についてわかりやすく、私が理解しやすかったのが西条市のものでした。紙面の都合上、ここに詳しく書けませんのが、やはり景観というものはその土地に生活する人々、歴史や文化に根ざしたものであるということがわかります。つまり人それぞれに思いがあり、それぞれの景観があるのではないのでしょうか。

まだ委員会メンバーでも景観というものをはっきりとつかめてはいません。もちろん斯くいう私もです。です

が、様々な景観を見ていくうちに何らかの方向性が見えてきて、委員会としての景観とのかかわり方も見えてくるのではないかと考えました。

そこで当委員会では「まちづくり景観写真コンテスト」として、建築を絡めた景観写真を募集することにいたしました。詳細が決まりましたら発表いたしますので、皆様是非ともご参加ください。建築を絡めた写真ですので、原則として土木構造物は含みません。故郷の風景や心に残る建物の景色など、皆様の応募をお待ちしています。



遍路を見守る遍路宿



卯之町を見下ろす宇和米博物館

良質な建築・美しい街づくりの仕組、

ほうが
萌芽事例の募集

街中(空き家)部会長 眞田井 良子

街中(空き家)まちづくり部会では、愛媛県内の「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽」の取り組みの情報共有、活用へ向けて、事例を募集したいと考えています。

集まりました事例で特に皆様を紹介したい取り組みに関しては、2022年1月頃、発表していただいたり、勉強したりする会を設ける予定です。

ある程度事例が蓄積された時点でファイルにまとめます。その際に、事例シートをご提出いただいた方にはファイルを1冊プレゼントする予定です。詳細は追ってご連絡いたします。

愛媛県の「良質な建築・美しい街づくり」醸成のため、ご協力をよろしくお願いいたします。

女性委員会主催「オンライン顔ヨガ体験」 開催報告

女性委員会 委員長 近藤 佳代

講師：岡 由記 様 (SNOWFLAKE代表)

開催日：令和3年2月27日(土)

場所：Zoom利用のオンライン

参加者：10名 (一般含む)

コロナ禍になってから既に1年以上が経過しました。リモートワークでのお仕事に変わったり、自宅で過ごす時間が増えた方も多いと思います。外出時にはマスクを着用することが必須の生活となり、顔を動かす機会も減っているかと思えます。気持ちが落ち込み、表情まで暗くなっていませんか？ また女性会員の皆さん、マスクで顔が隠れるのをいいことにお顔のお手入れをサボっていませんか？

人間は五感を使って情報を判断しますが、そのうち視覚からの情報は83%を占めると言われています。また、人が他人から受け取る第一印象の約7割は、相手の顔から判断しているそうです。

そう考えると、顔の表情って大事ですね。コロナ禍だからといっておろそかにしてはいけません。そこで、オンラインでの顔ヨガ体験を企画しました。

ところで、顔ヨガって何？

顔には約60もの筋肉があります。それらを表情筋と呼んでいます。ところが、腹筋や手足の筋肉とは違い、意識しにくいこともあり筋肉をうまく動かせていないこ

とが多いそうです。つまり、顔の運動不足。これが慢性化すると、顔のたるみやしわの原因となるそうです。それを予防するためにも、表情筋を鍛えることは大事だそうです。そして、年齢にかかわらず誰でも表情筋を鍛えることは可能で、結果が確実に出るそうです。

さて、体験当日には様々な悩みを抱えた女性10名が参加しました。Zoomでの参加ということで少々緊張感みな参加者たちでしたが、先生の明るいトークで徐々にリラックスした雰囲気になりました。

顔ヨガの前に、まずはウォーミングアップ。首回りなどをほぐします。普段デスクワーク中心の私は、これだけでも気分がほぐれリラックスできました。そして、いよいよ本番、顔ヨガのレクチャーが始まりました。

むくみ顔減退、血流アップ、小顔、視界スッキリ効果のある「くちゃくちゃぱっ」のポーズのほか、ほうれい線を解消するポーズ、二重あごを解消するポーズなど数種類をレクチャーしていただきました。ポーズの最中は、いわゆる変顔という表情ですが、参加者は真剣そのもの。また、オンラインということもあり人目を気にしないで思いっきり変顔でポーズを決めることができました。

短時間の体験でしたが、筋肉がピリピリする感覚もあり、普段の生活で表情筋をうまく使っていないということが実感できました。続けることで確実に成果が出るそうなので、これからも日常に取り入れたいと思いました。

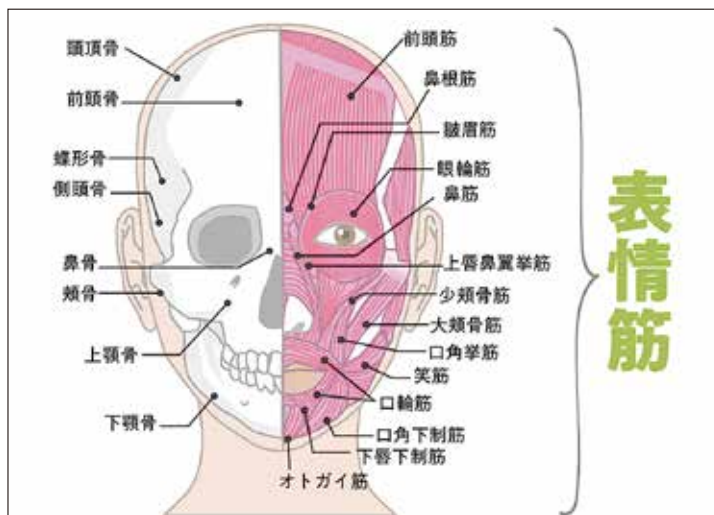
ところで、今年度はコロナ禍の影響で、委員会の活動もかなり縮小して行いました。今回の勉強会の他に、委員会も対面ではなくZoomを利用して開催しました。

参加者同士の直接のふれあいが残念でしたが、逆にZoomならではのメリットも感じました。

例えば、今回のように県外の講師を招いての勉強会も、気軽に行えること。地方にいながらも全国レベルの体験ができるのもZoomならではのメリットだと思います。

また女性会員の場合、子育てや介護等の為、なかなか外出できないという声も聞きます。でも、オンラインならば、そういう場合でも気軽に参加することも可能です。

今後は、徐々に対面での勉強会等を増やして会員相互の交流を図りたいと思いますが、Zoomなども上手に取り入れて、幅広い年齢層の女性会員に参加していただけるコンテンツを企画したいと思います。



住宅なんでも相談会

四国中央支部 支部長 岸 良一

実施日：令和3年2月7日(日)

実施場所：市役所市民交流棟2階会議室

参加人数：四国中央支部9名、市役所建築住宅課4名

相談者：8組

四国中央支部では例年夏に開催されていた紙まつりに
おいて相談会を行っておりました。しかし、今年度は紙
まつりを始め多くのイベントが中止になり、市民の方が
大勢集まるイベントでの開催ができなくなりました。そ
こで、コロナウイルス感染対策をしっかり行いながら、
市役所建築住宅課の皆さんと一緒に、新しくできた市役
所交流棟2階会議室において住宅なんでも相談会を行う
ことと致しました。また、相談会と同時開催で、四国中
央支部会員の紹介と会員の作品展・完成写真・パース・
模型等も初めて行いました。これは、市民の皆さんに一
人でも多く会場に足を運んでもらおうということと支部
会員相互の交流を目指したものでした。

今年度の四国中央支部の活動目標の中に空き家問題に
取り組むことを掲げておりましたので、「接道がなく建
て替えできない建物や空き家をお持ちでお困りの方も相
談に来てください」と住宅の事なら何でも相談に応じま
すという内容で市の広報誌や新聞折込、地元ケーブルテ
レビ等でPR活動を行いました。その結果、8組の方が
相談に来られました。



相談会の様子（手前が相談者、奥が建築士会）

相談の内容は接道と空き家に関する相談が6件、耐震
と新築に関する相談がそれぞれ1件でした。空き家の管
理や処分に苦労しているという相談内容が多数あり、ど
の相談も簡単には解決できない課題があるものばかりで

相談は長時間に及ぶものもありました。今回は市役所建
築住宅課との共催ということもあり、市役所の道路情報
を相談会場に持ち込んで、地図上で確認しながら具体的
に解決策を探ることができました。



手前が相談者、奥が石川副支部長と市役所の横内氏

相談者、建築士会、市役所の3者で一緒に解決策を探
すという、今までにない形で相談会が実施できたことは
とても素晴らしいことだと思いました。また、その場で
答えられないことについては、後日調査を行い、結果を
報告する形で対応することとしました。当日の様子は愛
媛新聞に掲載され、建築士会の活動を一般の市民の人に
知っていただく良い機会になりました。

今回の相談会で、解決の糸口が見つかったと喜ばれて
いる相談者も多く、今後もこのような形で継続して実施
していく必要があると考えています。

相談会の開催にあたり市役所の皆さんをはじめ協力し
てくださった全ての皆様に感謝を申し上げたいと思いま
す。ありがとうございました。



手前が相談者、奥に尾藤副支部長と市役所の白川氏

身近な施設をCLTで

今治支部 越智 一貴

今治地区林材業振興会議から愛媛県産材を活用したCLT普及促進スキルアップ事業として今治支部へ依頼があり、新しい材料での設計の選択肢も増え、耐震性・意匠性・施工性・環境性に魅力ある建築物の建設にも可能性を感じて事業へ参加いたしました。



西予市野村町応急仮設木造住宅(著者撮影)

さて、芸予地震から20年、東日本大震災から10年です。当方、木造住宅耐震診断士・応急危険度判定士・消防団員・防災士で勉強の為、組合依頼があった東日本大震災に緊急仮設木造住宅建設応援要請がありましたが、タイミングが合わず断念し、2017年西日本豪雨災害の緊急仮設木造住宅建設へ職人として従事させて頂きました。その経験からCLT多目的住宅のチームとして、主に基本プランとCLT材料・労務積算を担当しました。

今後起こる可能性の高い南海トラフ地震などが発生した場合に、被災区域が広範囲となり、明らかに緊急仮設住宅が足りません。建設業においても高齢化に伴う引退・事業廃業など職人不足は深刻化しています。鉄骨仮設プレハブの初期仮設施工性の良さ・在来工法仮設木造住宅の建設職人の生活の保護(被災3ヶ月は自身も被災しているので仕事がない)・鉄骨ボックスプレハブ、キャンピングカーなど仮設住宅形式も多種多様な方法がありますが、新しいCLT緊急仮設木造住宅は初期施工性

の良さ・建設労務費の削減は大変魅力的な工法に位置づけられます。CLT材料積算において留意したことは「有事の際4トントラックで運べること」で、なぜかと言いますと、道路が寸断、損傷を受け大型車の通行が困難な場所に仮設住宅を建設します。また、ウイング車やドライバンタイプの車両は災害物資運搬にすべての車両は押さえられます。平ボデーは通常物流の仕事が止まりますので車両の確保はできます。しかし、建設する戸数が多く仮設住宅建設期間が長期に遅れることによる、被災者への健康被害等懸念をしなければなりません。そこで、被害が起きてからではなく、あらかじめスポーツ合宿所、公園、宿泊所、別荘を想定して建設、災害時にはCLT緊急仮設木造住宅として転用をする(社会的備蓄)。

災害時には、即応型緊急仮設住宅として防災の拠点となり対応ができる魅力があります。建築物の役目を終えるとCLT建築物を解体「移設利用*2」が可能であり、サスティナブルな工法となります。



しまなみサイクリングオアシス(仮)*1

ただ、単体で建設するのはなく、総合的な複合施設からトイレ、集会所などを兼ね備えた総合避難所・旅行帰宅困難者受入施設へ転用できる例です。平時には複合施設として地域活性化に繋がり経済波及効果を期待することが出来ます。

初めてこのような会に参加させて頂きました。メンバーの色々なアイデアなどを聞いて楽しめました。

出典元

- *1 今治地区林材業振興会議「身近な施設をCLTで」
- *2 建設時移設利用の選択による接合部接着工法なし傷材料及び構造用金物は交換が必要

参考団体・文献

愛媛県CLT普及協議会

今治地区林材業振興会議

住友林業株式会社ニュースリリース2020年8月24日号



CLT多目的住宅*1

昭和・平成・令和

今治支部 新居田 明夫

同級生の越智通雄さんより、バトンを受けました。

昭和34年に、大西町の片田舎の土建屋の次男坊としてこの世に生をうけました。大西中学校の時の昭和47年に災害があり、初めて集中豪雨を経験。土砂崩れ等を体験しましたが、それ以来大きな災害がない旧大西町です。大学へは、親父の一言で建築学科を受験、4年間で熊本の地で楽しく過ごしました。私が過ごした昭和52年から昭和56年の時代、熊本県どころか、日本でも今ほどは、災害がなかったように思います。

昭和63年に結婚しまして、人生が変わり始めたころ昭和天皇の崩御があり、時代は平成へと向かって行きます。長男が元年に誕生した時に、奥様から一言「一級建築士」を取る気があるなら、今年しかないと言われて、人生の中で一番性根をいれて「勉強」しました。何とか平成3年2月に、一級建築士の免許をいただきました。

平成5年に独立して現在に至っていますが、何とかやっている次第です。住宅に関しては、瓦屋根、妻付が一番良いと田舎では言われていました。それが、平成7年の「阪神・淡路大震災」で方向性が少し変わりました。日本で起きたとは思えない光景に愕然としたし、阪神・淡路なので四国に近いこともあり、いろいろな影響がありました。

次に、平成13年に起きた「芸予地震」では、今治で一物件の倒壊がありました。大西町では、建物の被害は比較的少なく済みましたが、お墓の被害が多かったみたいで、この地震によって一般の人が、「断層」という言葉を覚えたのではないかと、思います。

この後も、「鳥取県西部地震」「岩手・宮城内陸地震」等多くの地震が報告された挙句に起きたのが、平成23年3月11日に起きた「東日本大震災」です。原発の安全性が疑われ、停止する施設がほとんどとなり、電力不足が起こり、公共施設の耐震診断や耐震補強が行われるようになってきました。

平成28年4月14日と16日に起きた「熊本地震」では、大学の4年間で過ごした第2の故郷でもあるので知人も多く、14日の後は状況を聞けたのですが、16日の後の状況はテレビで見るだけで聞くことはできず、3年間通った阿蘇キャンパスは閉鎖になっただけで、多くの後輩たちが命を落としたとニュースで見る事しかできませんでした。

このところ、年に何件か耐震診断に行かせてもらっています。「南海トラフ地震」が今現在注目されていますが、年配の人によく言われるのが、昭和の南海地震では、今治近辺では揺れたのもわからなかったらしく、どうしても危機感が少なく感じられます。

時代は、令和になり、現在は目の前の見えない敵の新型コロナウイルスへの対応でいっぱいかなと思います。



2012年5月東日本地震の一年後の太郎地区



「あまちゃん」の撮影現場にありました



一部復旧した三陸鉄道

2013年、三陸鉄道が一部復旧するので、当時の大西地区自治会で研修を兼ねて、「あまちゃん」の撮影現場へも行かせてもらいました。道が狭く大型バスは進入できないので、ほとんどがジャンボタクシーでした。確かに、復興へ向かって進んでいました。

今回のコロナで今は自由に動けませんが、できることを心掛けて、新型コロナウイルスに打ち勝ちましょう。

振り返ってみる

松山支部 花岡 晶子

辻川晃太郎さんからバトンを受け取りました、松山支部の花岡晶子と申します。昨年4月から情報・広報委員会の広報委員として、この「いしづち」の編集に携わって早1年。皆様からいただいた原稿を編集することは未だに緊張しますが、自分が書く番となると、また違った緊張感をもって机に向かっています。人前でお話したり、文章を書いたりということに対して苦手意識はありますが、苦手を一つ克服するつもりで臨みたいと思います！

とはいえ、何を書こうか悩み続けていたこともあり、原稿の締め切りぎりぎりのタイミングとなってしまいました(苦笑)。私のことを知らないという方もたくさんいると思いますので、簡単に自己紹介も兼ねて過去を振り返ってみます。

建築の仕事をしている父の影響もあり、小さい頃から文化財を中心に様々な建物を見学する機会が多くありました。学校の授業でも、工作など物を作ることは好きだったことを覚えています。上手ではありませんが(笑)。なんとなく、将来は建築に携われたいいなという気持ちで、建築学科のある鹿児島大学に進学しましたが、同じ高校から鹿児島に行く人はいない、初めての土地での一人暮らし、正直不安しかありませんでした。事前の口コミでは、「鹿児島はいいところだよ。灰が降らなければ…」と皆口をそろえて言うのです。私の脳内は??でいっぱいになりつつも、鹿児島での生活にも慣れてきた4月中旬、その意味を身をもって体験することになります。



桜島の噴火の様子

学校から明るいうちに帰宅して間もなく、外が急に暗くなったのです。大雨でも降っているのかと窓から外を見てみると、なんと桜島の大噴火による灰で一面真っ黒(写真の噴煙の10倍以上)。衝撃的でした(笑)。その灰はバルコニーに積もり、洗濯物は基本部屋干し、道路に積もった灰は風が吹けば舞い上がり、容赦なく目に入る。裸眼の私でも目に入るととても痛いので、コンタクトの人は相当大変なことは容易に想像できます。除雪車なら

ぬ除灰車(?)も出動します。それまでの愛媛での生活がどれだけありがたかったか思い知った出来事でした。

そんな灰との戦いの生活も4年間送ると愛着がわきまです。就職先は東京。鹿児島を離れるときは寂しいっばいでした。東京での生活はこれまた一変。大都会での生活は大変だと覚悟はしていましたが、想像以上！毎朝の通勤ラッシュはものすごい人の数。5分に1回程度電車は来るのに、どの電車も満員なのが不思議でなりません(苦笑)。もみくちゃにされながら通勤していました。

就職して最初は総務部で会社の事を学び、その後デッキプレート工事を主とする部署に異動となり、デッキプレート工場の施工管理と仮設材のリースを取り扱っていました。東京の現場は規模が大きく、何十階建の現場もありました。限られた敷地内でスムーズに建方が行えるよう、先輩や職人さんに教えてもらいながら悪戦苦闘。地上にいるときは隣地との空きは広いように感じていても、上階から下を覗くと真下に歩道や線路があるように見えるのです。物が落下なんてことがあれば大事故につながるため、細心の注意を払っていました。

東京から愛媛に戻ってきて、今は父と一緒に仕事をしています。こんなことを言うのもなんですが、昔は全然想像していませんでした(笑)。東京の現場とは違い、文化財の調査や修理などに携わることが増え、こちらも奥が深いことを実感しているところです。月に1回、文化財講座のアシスタントとして色々な文化財を見学・勉強させていただいた時期がありましたが、四国だけでも魅力ある文化財がたくさん存在するのを知りました。また、今までは建物ばかりに注目していた分、足元を見ることはほとんどありませんでした。足元の魅力の一つはマンホール。市町村によってデザインが異なり、その地域の特徴が描かれているので、初めて行くところではマンホールを探すようになりました。最近ではカラーのものも多く、気になる方はぜひ足元にもご注目を！



過去のことを振り返るままに書いたため、締め方も上手にできませんでしたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。次回は同世代で仲良くしていただいている宇崎佑さんにバトン渡したいと思います。よろしくをお願いします！

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和3年 7月号 (141号) 令和3年5月27日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛
FAX 089-948-0061

編集後記

事務局より、「いしづち」けんちくの輪の人選について、投稿者より、次の投稿者への指名が出来ず、困惑している方がいるとの相談があり、広報委員会で協議を行いました。

結論は出ていませんが、下記の案が出ています。

提案①会報誌という事に固執せずに、建築士会委員以外にも指名の幅を広げる選択があってもいいのでは?

提案②指名制度自体を廃止し、編集者側(広報委員会)から適任者を指名する事もありでは?

提案③現在2名の投稿が無理なのであれば、1名になってもいいのでは?

などです。

今まで長く続いてきた輪を継続するための方法を会員の皆さんからもご意見を頂けたらと思います。

〈いしづち〉2021/5

令和3年5月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/赤松 慶隆 門屋 広一 成松弘之助 西森 勉 花岡 晶子